



浅間山をまぢかに眺める浅間牧場の近くの分去(ワケサレ)茶屋のあたりは標高 1250m 位はあります。熊、猪が出没する山林ですが、農地もあり、北軽井沢と呼ばれています。たくさんの別荘地があります。ここの山荘で夏を過ごす友人に招かれて、今年も北軽井沢で、のんびり数日を過ごすことが出来ました。

留守で、窓が締まっている山荘が多いように見受けられました。最近は、「安近短」が好まれ、山荘の人气が落ちてきているようです。けれども、大自然に魅せられて、別荘地に永住している方々もいるとのこと。友人は高原が大好き、田舎暮らしが大好きで、35 年以上毎夏、ここで過ごしています。広大な山林に、隣近所から離れて、ポツポツと建っている山荘はひっそりとしています。人通りもなく、赤松、唐松、クヌギが高く伸びて、昼でも涼しい木陰の道が遠くまで続いています。

今年、横浜は猛暑でした。これまで風通しのいいエルミタージュの窓からは緑の木々を通り抜けて涼風が入ってきて、冷房の必要をさほど感じたことはありませんでしたが、今年は熱風が入ってきました。熱中症にご用心とのニュースで、エルミタージュも 24 時間冷房という「異常事態」に陥っていましたから、北軽井沢でのしばしの休息はとても嬉しいものでした。山荘は冷房も不要なばかりか、カーディガンや靴下を着用して過ごしました。

友人の山荘は機能的で、コンパクトです。友人は堀炬燵がある和室がお気に入りのようですが、私が一番気にしている家具は、飛騨のソファ・セットでした。それがいつの間にか増えてきた家財道具のせいか、片隅に追いやられて、荷物の置台になっていました。和室が苦手な私は、模様替えをしてもいいか許可を受け、食卓セットをカウンターの下に引き寄せて入れ込み、ソファ・セットをリビングの中央に持ってきました。それがとても部屋の壁、暖炉、窓とマッチして、山小屋らしい、温もりのある雰囲気になった！と確信しました。随分図々しいゲストで、申し訳ありませんでしたが、友人も喜んでくれました。ソファに座って、お茶を飲みながら、いつまでも話が弾みました。

夕刻になり、食事の前にお風呂に入りなさいと勧められました。こんなことは温泉旅館にでも行かなければ不可能な贅沢でしたが、お言葉に甘えて、お風呂にしました。林に面している浴室の大きな窓から、ちょうど西に沈む夕日が赤松の幹や、木々の葉を照らしています。それを眺めながら湯船につかりました。風が流れ入り、露天風呂のようなさわやかさでした。入浴後の夕食は格別でした。友人が目下、凝っているレシピのボルシチが上手に出来ていて、美味しい食事となりました。



けれどもなんと言っても山荘での楽しみはベランダでの朝食です。
♪ 朝風、静かに吹きて、小鳥も目覚むる時、清けき朝より清く、浮かぶは神の思い ♪と讚美歌を口ずさみます。緑の木立を眺め、時々飛んでくる蜂を追い払いながら、すっきりとした朝風の中で朝食です。定番の

キャベツのサラダと手作りのルバーブ・ジャムをかけたヨーグルトは必ず添えられています。恵まれた日々を感謝しつつ、横浜に残っている家族にも平安がありますようにと、食前の感謝の祈りを共に捧げました。朝食後は、キリシタンに関する新聞の切り抜きを整理することにしていたのですが、無理でした。散歩に出かけた夫から、着信のみの電話。ヤフーの電波が通じない場所でした。友人のスマホを借りて電話をしました。広大な別荘地の小道を「考え事をしながら歩いているうちに、迷子になったよ」とのこと。ひと騒動しながら、探しあて、山奥に来たんだと思い知らされました。